

# 泰山木

かしこく なかよく たくましく

大井第二小学校だより 令和7年2月25日(火) 第12号

## 東濃地区学校図書館教育賞 総合優秀賞

昨年度、「優秀賞」をいただいた「東濃地区学校図書館教育賞」において、今年度、本校は「総合優秀賞」を受賞しました。

保護者の皆様には、朝活動の際、子供たちに読み聞かせをしていただくなど、何年にも渡り継続的にお力添えをいただきました。こうした積み重ねが認められて、晴れて最上位の賞を受賞することができました。誠にありがとうございました。

思えば、昨年度は「歯と口の健康づくり」において、こちらも最上位の賞となる文部科学大臣賞をいただいたところです。本校の「特色ある3つの教育活動」である「挨拶、読書、歯と口の健康づくり」の内、2つで大変大きな成果を上げることができました。

### 「誇り」や「自慢」になるために

一方で、これだけ大きな賞をいただいている中で、子供たちが自らの読書生活や歯と口の健康づくりに対して、どれだけ「誇り」を感じたり「自慢」に思ったりしているかということが、昨年度来の課題です。

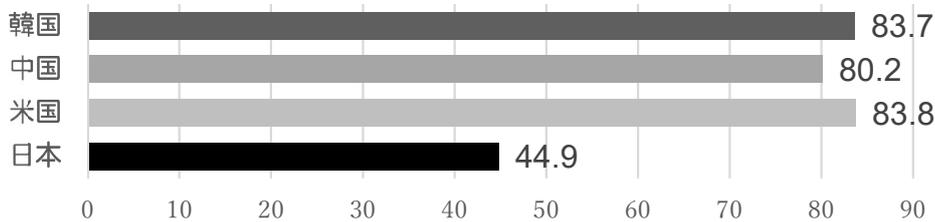
ほこり【誇り】 ほこること。自慢に思ふこと。また、その心。

じまん【自慢】 自分や自分に関係の深いものを、自分でほめ人に誇る事。

——「広辞苑」第六版(岩波書店)

広辞苑を引くと、「自分でほめ人に誇る事」という言葉があります。思い出すが、アトランタ五輪女子マラソンで銅メダルを獲得した有森裕子さんの言葉「自分で自分を褒めたい」です。「自己肯定感」という概念の先駆けになったことが思い出されます。

少し古い調査になりますが、2018年に日米中韓4か国の高校生を対象に、「私は価値のある人間だと思うか」というアンケートが行われました。肯定的回答をした日本人は44.9%。他国が軒並み8割を超える中、突出して低い数値でした。



2018年「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書」より(国立青少年教育振興機構)

控え目で謙虚というのは日本人の美德ですが、頑張ったことや結果を残したことについては、もっと自分を褒めるべきではないでしょうか。私たち大人にできることは、子供たちの日常の中の努力や頑張りを逃さず見つけ、意味付けたり価値付けたりして、子供自身に「あれ、自分って結構イケてるかも」と思わせることではないでしょうか。「その気にさせる」と言ってもいいでしょう。

特に、読書や歯みがきは家庭でも行われる日常のこと。ぜひ保護者の皆様からも引き続きお力を貸していただき、子供たちの「誇り」や「自慢」を学校とともに育てていきたいです。